

中國出土資料學會
平成30年度第1回大会

日 時：平成30年7月7日（土）
平成30年度第1回大会
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00

場 所： 成城大学 7号館3階 732教室 （東京都世田谷区成城6-1-20）
キャンパスマップ：<http://www.seijo.ac.jp/access/campusmap.html>
会場へのアクセス： 小田急線成城学園前駅北口より徒歩3分

報告Ⅰ 李 筱婷（東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程）

発表題目：馬王堆漢墓帛書『春秋事語』用字研究

発表概要： 本報告では馬王堆漢墓帛書『春秋事語』（以下では『事語』と略称）の用字を戦国「文字異形」の角度から分析し、『事語』の用字を 戦国時代の五つの文字系統の中に位置づけることを試みる。

『事語』に対してこれまで三十年間様々な研究が行われたが、用字の観点からは十分な研究がなされていない。『事語』には他文献には見えない特徴的な用字が見られ、その記述・分析は重要な課題であるといえる。本報告は先行研究を踏まえた上で、「入」「後」「莊」などの用字を戦国時代五大系統の用字習慣と比べ、『事語』は 成立過程において齊系の影響を受けた文献であると考えられることを主張する。『事語』は楚地から出土したにもかかわらず、春秋時代の説話という『事語』のテキストの性質上、楚の現地的要素は多くなく、他地域の複雑な影響を受けたと考えられる。

報告Ⅱ 黄 海（華東政法大学法律古籍整理研究所博士生）

発表題目：嶽麓秦簡所見“秦的核心統治區域”與秦漢時期的關中

発表概要： 《嶽麓書院藏秦簡（肆）》所刊の簡 2106-2111 為一條律文。其中以“郡及襄武、上雒、商、函谷關”這一區域的內外為標準，就逃亡與藏匿進行了一系列的規定。“郡及襄武、上雒、商、函谷關”應該是通過注明東南西北四方的地名來表示某一區域，這一區域應該是當時秦的核心統治區域。通過分析可以發現，嶽麓簡中出現的這一區域概念與秦漢時期“關中”的區域概念有密切的關係，其範圍不只局限于地理上的“關中”，還包括了隴西東部、北地郡、上郡等地區。對於秦人來說，這些地區均已統治了較長時間，故而形成了這一區域概念。秦國之所以以這一區域為核心統治區域，與統治範圍內的其他區域相區別，可能與“遷”這一政策有關，這在簡 2106-2111 所載律文中也有所體現。

報告Ⅲ 曹 方向（安陽師範學院講師）

発表題目：上博簡《靈王遂申》再研究

発表概要： 《靈王遂申》是《上海博物館藏戰國楚竹書》第九冊的一篇，未刊布以前曾有學者介紹，題為《楚分蔡器》。竹簡保存較為完好，應該是首尾完整的一篇書籍簡。竹書內容是楚靈王滅蔡前夕，申成公父子的故事。這篇竹書為探索楚靈王時楚和申、息、蔡的關係提供了新的參考資料。我們曾撰寫《靈王遂申》“通釋”稿，在調整整理者注釋的基礎上，重新釋讀簡文並回顧了關於楚、申的關係問題，得到各方專家學者批評指正。現結合新的研究成果，再次研讀該篇竹書，依然圍繞字詞考釋、斷句調整，以及關於簡文史料價值的反思來展開。在戰國書籍簡的研究過程中，既要重視，又不能誇大其作為史料的價值。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

連絡先 (大会委員長)

〒270-8555 千葉県松戸市新松戸 3-2-1

流通経済大学法学部 富田 美智江

Tel : 0297-60-1930 (直通)

E-mail : tomita-michie@rku.ac.jp

成城学園前駅(北口)から学園正門まで徒歩3分

